



平成 10 年 3 月



## 教育随想

広島市教育センター所長 新居俊之

私の家の近く 2・3 分のところに、こじんまりとした感じの良い小料理屋がある。

料理の特色は豆腐料理にあるが、そのおいしさが評判となって、県内はもとより全国のテレビで放映され、「うまい店」という本でも紹介されている。

先日、ちょっと立ち寄ったところ、今度また、県内のテレビ局から出演依頼があり、スタジオに出向くという。

簡単なシナリオがあり、そのシナリオの終わりに、アナウンサーがママに「あなたにとって、料理とは何ですか。」と問い、ママが「それは〇〇です。」と応答する部分があった。

私が「この〇〇の中に何を入れるの。」と尋ねたところ、ママは即座に「それは愛です。」と答えた。

そのママの言葉には、豆腐への、又料理に対しての、そしてお客に対してのそれぞれの思いが込められており、ママの料理人としてのひたむきな生き方、その姿勢に深く感服したところである。

教育において必須なものも、それもまさしく「愛」ではないだろうか。今日、心の教育の必要性が強く要請されている時、学校、家庭、地域社会の中で失われつつあるもの、それは、自己への愛や他者への

愛を含めた、相互愛ではないかと思っている。

平成 8 年 1 月、読売新聞社の行った「学校教育に関する世論調査」(全国有権者 3,000 名対象、複数回答)によると、「あなたは教師にどのようなことを望みますか」という問いの答えの上位には、「児童・生徒への愛情や思いやり」(52.5%)、「教育に打ち込む熱意」(41.5%)、「教育者としての信念や職業倫理」(33.9%)などがあがっている。これは、まさに教師の子どもたちに対する愛、教育に対する愛が問われているのである。

料理をつくる者が、その料理に愛をもって誠意をつくすと同じように、私たちも社会の中で、それぞれが認め合い、共生していくために、お互いの愛を育み、深めていくことが必要であることを痛感する。

私は常々、所員の皆が、「より速く、より確かに、より温かく」「迅速、堅実、誠実」をもって全ての職務を遂行して欲しいと願っている。

公務員として、全体の奉仕者として当然のことではあるが、つい惰性に流れやすい。職務に携わる者はそれぞれに、「愛」を基調としたホスピタリティを醸成することが必要であると強く感じている。

研究紹介

# 『児童の情報活用能力を育成するコンピュータ活用に関する研究』

## —情報倫理に視点を当てて—

広島市教育センター主任指導主事 神津 住男

### 1 なぜ「情報倫理」を育成する必要があるのか

今日、情報化が進出し高度情報通信社会の到来も現実のものとなりつつありますが、一方では興味本位の情報収集や安易な情報発信が横行し、信頼性に欠ける情報、プライバシーや人権を侵害する情報等が氾濫するという深刻な問題が生じています。このような状況の中で、児童には、情報の重要性を認識し、自分の発信する情報に対して責任をもつという「情報倫理」を育成することが不可欠になっているのです。

### 2 「情報倫理」を育成する手だてと授業づくり

「情報倫理」を育成するには、児童に情報の重要性を認識させ、自分が発信する情報に対する責任感を持たせる授業づくりが必要ですが、情報活用能力の育成の視点からの授業づくりも必要です。

#### (1) 情報の重要性の認識の育成

情報の重要性を認識させるためには、次の三つの要素を育成しなければなりません。

- ①情報の必要性についての理解
- ②情報発信者の工夫や努力の理解
- ③他者が持つ情報の必要性や重要性の認識

図1のように、他者の情報の必要性や重要性を知る共同学習などを設定し、課

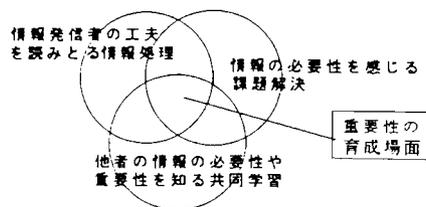


図1 情報の重要性の認識の育成

題意識をもって、情報処理を行うことができるよう支援していくことが重要です。

#### (2) 情報に対する責任感の育成

情報に対する責任感を持たせるためには、次の二つの要素を育成しなければなりません。

- ①加工した情報への信頼感・自信
- ②相手意識（受信者への意識）

図2のように、情報処理を通して受信者を意識し

た情報発信ができるよう支援していくことが重要です。

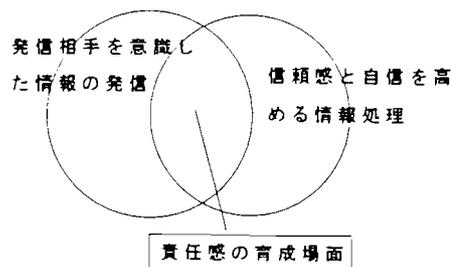


図2 情報に対する責任感の育成

### (3) 情報活用能力の育成

「情報倫理」は情報活用能力の要素の一つであり(図3)、その育成に当たっては、情報活用能力として総合的に育成することが大切です。この情報活用能力は、「知識」、「技能」、

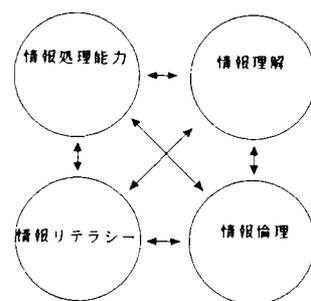


図3 情報活用能力

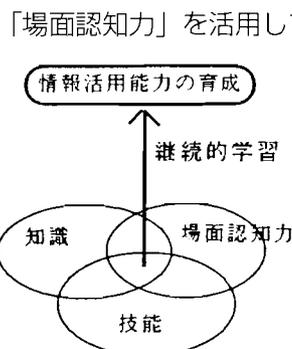


図4 情報活用能力の育成

「場面認知力」を活用して情報の収集、加工、判断、伝達のプロセスを体験することを通して徐々に育成されるものです(図4)。

情報活用能力の育成をめざす授業を設計する際は、特に次の三つの要件を満たすように心がけることが重要です。

- 主体的な課題意識をもたせること
- 試行錯誤の機会を確保すること
- コンピュータ等の適切なメディア、必要な情報を準備すること

(詳細は『研究紀要第17号』を参照)

研究紹介

『精神発達に遅滞がある児童の「見通し行動」を育てる指導に関する研究』

前広島市教育センター指導主事 中尾 秀行  
(現広島養護学校 小学部主事)

満足感や成就感を味わうことができる豊かな生活経験の積み重ねは、児童に目的をもって自発的に行動していく力になります。そうして生まれる児童の行動は、社会的なものとなり、自立的な社会生活を促すことにつながっていくものと考えられます。

本研究では、このような目的をもって自発的に行

う行動を「見通し行動」と呼び、精神発達に遅滞がある児童の「見通し行動」を育てる指導の在り方を、生活単元学習の授業実践を通して探りました。

その結果、「見通し行動」を育てるためには、次のような指導の手だてが効果的であることが明らかになりました。

「見通し行動」を育てる効果的な指導の手だて

経験過程	見通し行動を育てる手だて		
	学習活動	学習環境の整備	学習評価
<p><b>活動への意識をもつ</b></p> <p>興味・関心や意欲を高めるように視覚的な意識付けをして活動の目的をもつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動的な活動を多く取り入れるようにする</li> <li>具体的で分かりやすい活動を取り入れる</li> <li>見る、聞く、触れる等の経験が多くできるようにする</li> <li>他の学級、家庭、地域社会とかかわりが持てるような活動を取り入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの経験を想起させるための写真やVTRを準備する</li> <li>これまでの学習で使用した掲示物等について活用できるようにしておく</li> <li>教師が児童に一方的にさせようとする指示ではなく、一緒に考えていくような姿勢でかかわる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の意欲を高めることができるように、児童がやってみたいことや興味・関心のあることを日常生活で把握しておく</li> <li>言葉だけでなく視線や動作等の細かい反応を把握して言葉かけをする</li> </ul>
<p><b>活動が分かる</b></p> <p>これまでの活動を想起し本時の活動内容を確認し、これからどんな活動をするのか分かる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画表を作る活動を取り入れる</li> <li>学習で使用する教材・教具等を児童が作ることができる活動を行う</li> <li>1単位時間の学習活動がパターン化できるように活動を計画する</li> <li>感動や承認の機会が多くなるような活動を取り入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容別のカード等によって学習計画表を作り活動内容が常に確認できるようにする</li> <li>学習計画表に活動した様子の写真を貼って前時までの活動を振り返ることができるようにする</li> <li>言葉だけでなく動作や見本等を示すことができるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の可能性を信じるとともに良いところを見つける姿勢をもつ</li> <li>言葉よりも気持ちを優先したかかわりができるように心がける</li> <li>ゆっくりとあせらずかかわることができるように心がける</li> </ul>
<p><b>活動できる</b></p> <p>教師や児童がかかわり合いながら楽しい活動の経験をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的で分かりやすい活動を行う</li> <li>児童の実態に応じた活動ができるようにする</li> <li>言葉だけでなく体を動かして経験できる活動を取り入れる</li> <li>繰り返しできる活動を行う</li> <li>他の学級の児童や教職員、保護者との活動を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな環境を準備して刺激を豊富に受けることができるようにする</li> <li>児童が扱いやすい教材・教具を準備する</li> <li>机や椅子など活動しやすい配置をする</li> <li>学習計画表を、常時、児童が活動を確認できるところに掲示しておく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉かけだけでなく、児童と一緒に活動する</li> <li>一貫性のあるかかわりをするように心がける</li> <li>温かな人間関係の中で繰り返しかかわる</li> <li>言葉と行動を同時に示し、分かりやすい言葉で指示をする</li> <li>規則正しいリズムを大切にしながらかかわる</li> </ul>
<p><b>さらに活動できる</b></p> <p>満足感・成就感を味わうことができる体験を重ねていく</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しかった活動を新聞等にまめたり発表したりして次時の学習に期待がもてるような活動を行う</li> <li>活動したことを学習計画表や写真、VTR、製作物等を見る活動を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画表や写真、VTRをいつでも活用できるように保存しておく</li> <li>他の学級の児童や教職員、保護者に児童の活動の様子を知らせるための掲示等の工夫を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由な雰囲気の中でかかわる</li> <li>「よくできたね」などと意欲や自信をもたせる言葉かけをする</li> <li>身体接触等を行うとともに視線を合わせて表情豊かにかかわる</li> <li>かかわる側が生き生きとし、感性豊かにかかわる</li> <li>相手が理解できる方法で賞賛する</li> </ul>

経験過程の各段階におけるねらいに応じた活動を一人一人の児童の実態に即して設定するとともに、学習環境を整備・充実させること、また、子どもの

学びの視点に立った肯定的な評価を必要に応じて行うことにより、「見通し行動」は育成されていきます。

(詳細は『研究紀要第17号』を参照)



# 平成9年度

# 写真でつづ



**暴力的被害から身を守り安全を  
確保する能力を育成するための研修講座 (11/4)**  
—子どもが暴力から自分を守るための  
教育プログラムについて研修しました—



**中学校音楽科指導講座 (10/30)**  
—豊かな合唱表現を育てる指導と評価について  
研修しました—

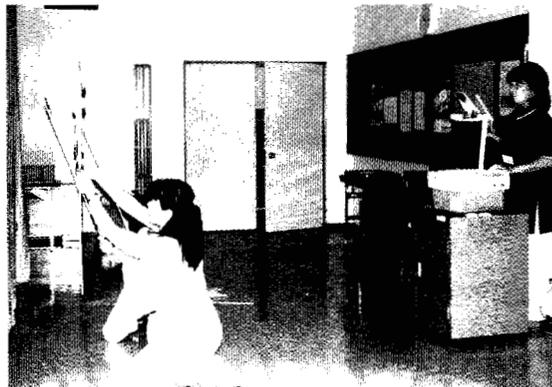


**幼稚園教育実技講座1組 (8/21~22)**

—OHPや指人形を使った遊びの教材研究  
と指導方法について研修しました—



**English Communication Workshop (5/27)**  
—英語の運用能力を高めるための演習でした—



# る研修講座



**体育的クラブ活動指導講座 (7/9)**

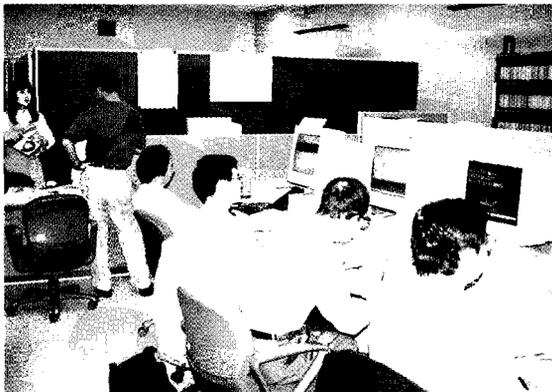
—心肺蘇生法と応急処置の方法について

研修しました—



**小学校図画工作科実技講座 5・6年 (8/26)**

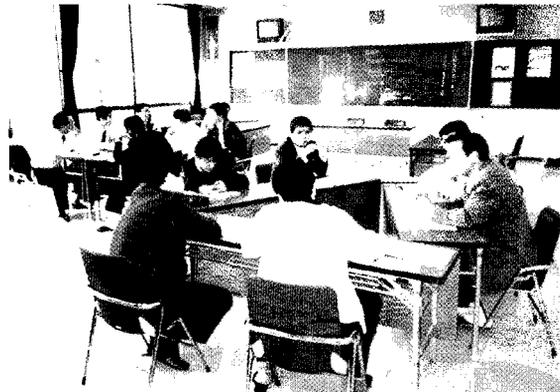
—水彩画の教材研究と指導方法について研修しました—



**コンピュータ講座応用VI 1班 (10/1)**

—教育用ソフトウェアライブラリ

の基本的な活用方法について研修しました—



**社会教育講座2組 (11/27)**

—ネットワーク事業の現状と課題について

研修しました



**小学校国語科指導講座 (6/2)**

—聞き合い話し合う力を育てる指導と評価について

研修しました—



# 教育実践の

## 取り入れてみましょう

### 音楽科教育（小） 子どもの学ぶ力を育てる音楽の授業

子どもが主体的・積極的に活動する学ぶ授業の充実が求められています。その授業を創造していくためには、次のような学習形態や場の工夫を通して、子どもたちの音楽の学習に対する意識を「教わる音楽」から「学ぶ音楽」へ変えていく必要があります。

- ① 題材の性格に応じ、一斉学習やグループ学習、ペア学習や個別学習を組み合わせる。
- ② 本時のめあてを達成するため、どのように学習を進めていくかを考え、自分のめあてを持つ場を設ける。
- ③ 学習を振り返り、次時の課題を明確にするため、自分の学習状況进行评估する場を設ける。

つまり、子ども一人一人が学習の目的をしっかりと理解し、自分の役割と責任を意識できるように、子どもの学びの視点に立った支援と肯定的な評価を行うことが大切です。（担当：井坂）

### 技術・家庭科教育（中） 「環境家計簿」を利用した環境教育

家電製品や乗用車の利用など、普段の何気ない生活の中で排出される二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）が地球温暖化の大きな要因として問題視されています。

昨年開かれた地球温暖化防止京都会議をきっかけとして、環境問題に興味・関心を高め、家庭から出るCO<sub>2</sub>を減らす方法について、環境教育の立場から「環境家計簿」を利用して子どもたちに考えさせてみてはどうでしょうか。

「環境家計簿」とは、電気やガス使用量や、ゴミの量などを記録し、一定の定数をかけることにより、家庭で排出されるCO<sub>2</sub>量を知ることができるものです。また、Windows95対応の環境家計簿ソフトウェアも出ています。

（担当：前田）

## おこたえします

### 「個別面接で大切なこと」

Q

私が担任している中学校2年生の女子生徒のことなのですが、最近、元気がなく、学習にも集中できないようなので心配です。少し様子を聞いてみたいと思い、面接をしようと考えています。どのようなことに留意して面接を行ったらよいのでしょうか。

A このケースのように面接を行う場合には、次のことに留意しながら進めていきましょう。

#### ① 安心できる場所を選ぶ

生徒のプライバシーに配慮して、人の出入りがなく、生徒が落ち着いて、安心して話せる場所を選びます。

#### ② 初めに、ねぎらいの言葉をかける

生徒の不安や緊張感が高いかもしれません。面接の最初に、  
「はい、ごころうさま」  
「急に呼んだりして大丈夫だったかな」  
など、相手を気遣う言葉をかけて、生徒の気持ちをリラックスさせます。

## —教育相談室から—

#### ③ 面接の目的を伝える

生徒は、「なぜ呼ばれたのかな？」という思いをもっていているでしょう。このようなときに、  
「最近、授業中、何か元気がないような感じがして、それで、今日、話をしてみたいと思ったんだ」  
など、面接の目的をきちんと伝えることが大切です。

#### ④ 生徒の話をしっかり聞く（教師がしゃべりすぎない）

生徒の話すことに寄り添いながら、関心をもって、ていねいに聞く姿勢が必要です。そのことで生徒は、教師から大切にされているという感じをもち、安心して、本当の気持ちが話しやすくなります。

#### ⑤ 質問責めにしない

生徒があまり話さない場合に、とかく質問しがちになりますが、一問一答になってしまうと、生徒のありのままの思いが出にくくなります。質問して、間が空いても、少し待つゆとりをもつことが大切です。

# アイディア

## 理科教育（高） インターネットの教育利用

わが国におけるインターネットの学校教育への導入は、21世紀の初頭には本格化することが予想されています。

理科教育におけるインターネット利用も、これまでの試行的、実験的段階から実践的、実用的段階へと進んでいます。

インターネット上には、理科教師にとって有益と思われる文書資料や画像・音声資料、あるいはソフトウェア等の教育情報が多数登録されています。これらの教育情報を取り入れて授業を一層活性化してみましょう。

なお、当教育センターにおいても、昨年9月から専用線でインターネットの利用が可能となり、現在、その教育利用について研究を進めています。

(担当：松浦)

## 英語科教育（中・高） 積極的なコミュニケーションを促す土壌づくり

コミュニケーションは、人の「心」と「心」を結び付ける架け橋となるのですが、英語によるコミュニケーションを活性化させるには、基盤となる英語を使おうとする意欲を育成することが重要です。そこで教師は、①より必然性のあるコミュニケーション活動の場の設定・充実、②英語運用能力を高める手だての開発、③コミュニケーションのとりやすい雰囲気づくりの醸成を図りながら、生徒の意欲をかき立てることが必要です。

つまり、最初から生徒の意欲のあるなしを問題にするのではなく、「コミュニケーションをさせられている」意識から進んで「コミュニケーションをしている」という自覚と喜びがもてるように支援していくことが大切なのです。

(担当：松脇)

## 相談機関を紹介します

### ⑥ 生徒の感情を把握し伝え返す

友達関係で悩んでいるような話が出た場合などに教師が、

「友達とうまくゆかず、今、つらいのかな？」など、生徒の感情に視点を当て、そのことを言葉で伝え返します。生徒の感情に教師が的確に応答することで、生徒は自分のことをわかってもらえたことを感じ、教師への信頼感を高め、さらに多くのことを話すでしょう。

このような中で、共感的理解が深まっていくのです。

せっかく面接を行っても、教師の対応によっては嫌なイメージしか残らず、逆効果になることさえあります。

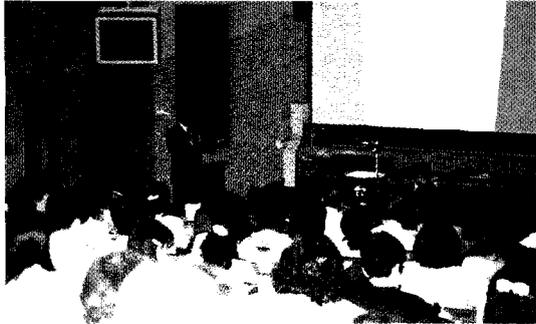
面接では、生徒が「先生は自分のことを考えてくれているんだ、味方になってくれている」という感情がもてるようになることが大切です。

相談機関	電話番号	相談日時
広島市教育センター いじめ110番	223-4420	月～土 9:00～17:00
教育相談室	223-4152	月～土 9:00～17:00
教育相談室（分室）	264-0422	月～金 9:00～17:00
広島市児童総合相談センター 児童相談所 療育相談指導所(医療機関)	263-0683	月～金 8:30～17:00
広島市精神保健福祉センター	245-7731	月～金 8:30～17:00
広島市青少年指導センター	222-4649	月～金 8:30～17:00
広島市婦人教育会館 家庭教育相談室	248-3315	火水金土 10:00～15:30 木 10:00～17:30
広島市家庭児童相談室	各区役所内	月～金 10:00～17:00
地域教育相談室 吉島公民館内 祇園公民館内 可部公民館内 矢野公民館内 五日市公民館内	246-0160 874-0068 814-0137 888-0094 921-0042	土日 13:00～17:00

# 教育センターひろば

## 教育センターこの1年

### 教育研究発表大会



今年度は、指導主事の研究に加え、当教育センターで半年間研修された方の成果も発表しました。

来年度も、ぜひ、御参加ください。

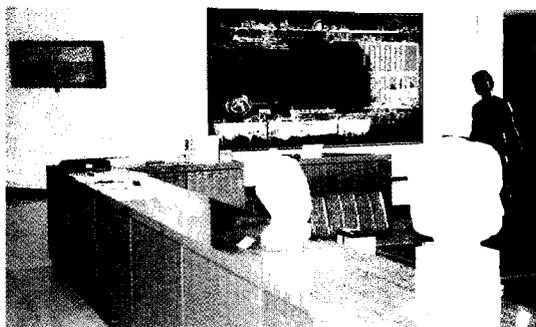
### 教育相談の充実



今年度から、心理療法士による面接相談を行っています。(火曜日 13時～17時)

子どもたちや保護者の不安や悩みについて、専門的な立場から相談に対応しています。

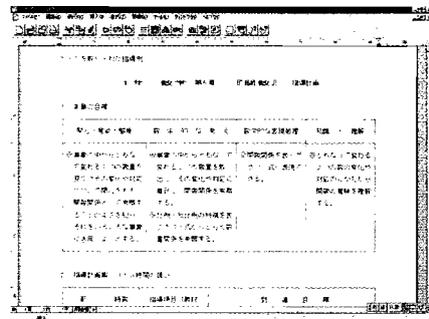
### 館内作品展示



今年度も、広島市立学校の教職員の方々の作品を館内に展示しました。

(絵画 21点、彫刻 7点、書 10点)

### 教育情報の登録



今年度末までに、各教科・領域に関する学習指導案や教育相談の指導事例等(252件)を教育情報としてコンピュータに登録します。必要な学習指導案等を検索し印刷することができます。

### 編 集 後 記

年度末を迎え、何かとご多用のことと存じます。今年度最後の所報をお届けします。今後の指導の充実にご活用ください。

題 字 広島市立宇品小学校校長 増田 義法  
表紙絵 広島市立早稲田中学校教頭 西村 達男